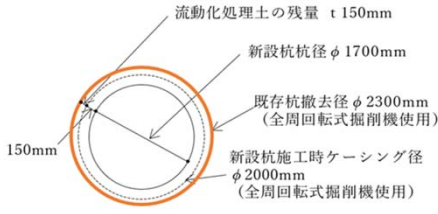
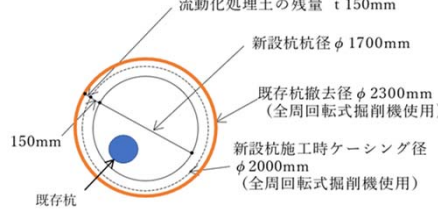
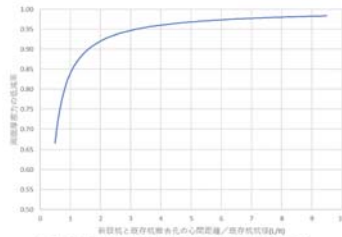
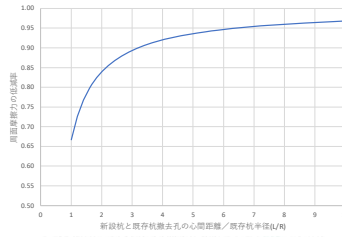
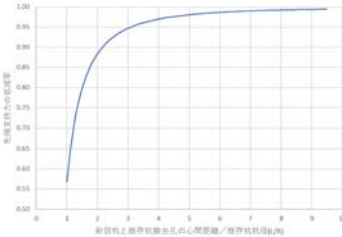
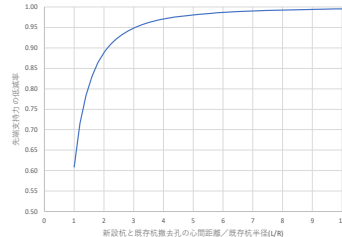
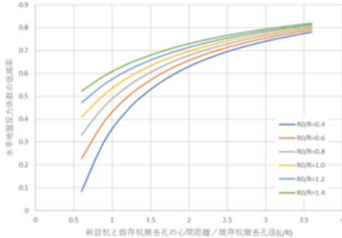
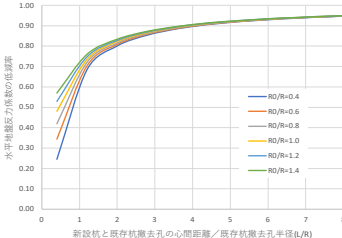


既存杭撤去に関する研究委員会報告書(2023年9月) 正誤表

整理番号 1-1から1-5まで:2022年6月30日更新 第2刷にて修正
 整理番号 2-1から2-2まで:2022年8月31日更新 第2刷にて修正
 整理番号2-2再、3-1から3-7まで:2023年9月6日更新 第3刷にて修正予定

改札

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正
1-1	4	D.【設計】	隔離距離	隔離距離 (p.129以降参照)
1-2	89	5.1.4 下から4行目	既存杭地下工作物の取扱いに関するガイドライン	既存地下工作物の取扱いに関するガイドライン
1-3	98	下から3行目	参考文献番号 1)	5.1)
1-4	114	図5.3.8タイトル	掘削孔の傾斜事例(掘削孔が低強度の場合)	掘削孔の傾斜事例(撤去孔の埋戻し部が低強度の場合)
1-5	120	図5.3.17	図中の既存杭が消えている 	図中に既存杭を表示 
2-1	19	図3.1.2	一番上の「油圧ジャッキ工法」	「油圧ジャッキ引抜工法」
【R:直径】 2-2	132	図6.2.2	$\theta = 2 \times \sin^{-1}(R/2L)$	Rの分母の2Lが4Lの間違い 正しくは、 $\theta = 2 \times \sin^{-1}(R/4L)$
【R:半径】 2-2再修正	132	図6.2.2	R:撤去孔の孔径(m) $\theta = 2 \times \sin^{-1}(R/2L)$	R:撤去孔の半径(m) $\theta = 2 \times \sin^{-1}(R/2L)$
【R:半径】 3-1	132	図6.2.2	$\alpha = 1 - 1/2[R^2(\pi - \theta) + 4L^2\theta - 2LR\cos(\theta/2)]/\pi L^2$	$\alpha = 1 - 1/2[R^2(\pi - \theta) + 2L^2\theta - 2LR\cos(\theta/2)]/\pi L^2$
【R:半径】 3-2	132	図6.2.3	横軸 L/R 心間距離/既存杭杭径  図 6.2.3 側面土圧力の低減係数(地盤の緩みが無い場合)	横軸 L/R 心間距離/既存杭半径  図 6.2.3 側面土圧力の低減係数(地盤の緩みが無い場合)
【R:半径】 3-3	131	図6.2.1	R:撤去孔の孔径(m) $\alpha = (1 - 2/\pi \times \sin^{-1}(R/4L))$	R:撤去孔の半径(m) $\alpha = (1 - 2/\pi \times \sin^{-1}(R/2L))$
【R:半径】 3-4	133	図6.2.4	横軸 L/R 心間距離/既存杭杭径  図 6.2.4 先端支持力の低減係数(地盤の緩みが無い場合)	横軸 L/R 心間距離/既存杭半径  図 6.2.4 先端支持力の低減係数(地盤の緩みが無い場合)
【R:半径】 3-5	133	図6.2.5	R:撤去孔の孔径(m) R0:新設杭の杭径(m) $\alpha = 1 - 1/(2L/(R\sqrt{3}) + R0/R)$	R:撤去孔の半径(m) R0:新設杭の半径(m) $\alpha = 1 - 1/(4L/(R\sqrt{3}) + R0/R)$
【R:半径】 3-6	134	図6.2.6	横軸 L/R 心間距離/既存杭杭径  図 6.2.6 水平地盤反力係数の低減係数(地盤の緩みが無い場合)	横軸 L/R 心間距離/既存杭半径  図 6.2.6 水平地盤反力係数の低減係数(地盤の緩みが無い場合)
【R:半径】 3-7	134	下から7行目-8行目	R:撤去孔の孔径(m)、R0:新設杭の杭径(m)	R:撤去孔の半径(m)、R0:新設杭の半径(m)